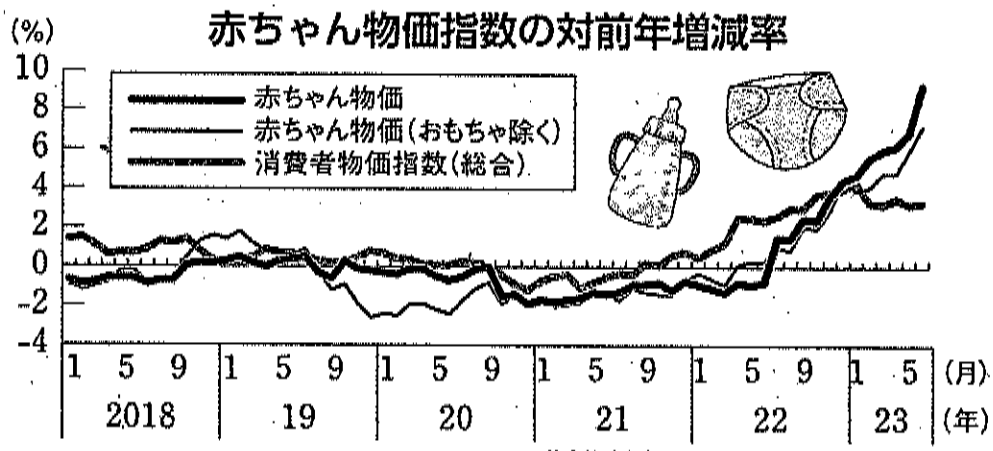
7/27 日.産



(浜銀総合研究所のデータから作成)

「赤ちゃん物価指数」9.3%増

子育て世代の家計直撃

長引く物価高騰による粉ミルクや紙おむつの値上がりが、子育て世代の家計を直撃し、負担をいっそう増やしています。民間シンクタンクの浜銀総合研究所が考案し、このほど発表した「赤ちゃん物価指数」の調査結果をみると、その深刻な実態が浮き彫りになってきました。

「赤ちゃん物価指数」とは、総務省の「消費者物価指数」から子育て関連の商品「粉ミルク」「紙おむつ(乳幼児用)」「乳児服」「人形」「玩具自動車」の計5品目を一定のウエートに基づき作成したものです。浜銀総研の試算によると、今年6月の「赤ちゃん物価指数」は前年同月に比べ9・3%の上昇。5月(同6・9%)の上昇幅をさらに上回りました。

6月の消費者物価指数で、値動きの大きい生鮮食品を除いた総合指数は前年同月比3・3%の上昇。6月の赤ちゃん物価指数は、総合指数の約2・8倍の伸びになります。

昨年から大手の粉ミルク、紙おむつの値上げが続いています。6月の消費者物価指数をみると粉ミルクは前年比17・2%、紙おむつは7・2%とそれぞれ上昇しました。

同総研は粉ミルク、紙おむつ、乳児服の必需品に絞った赤ちゃん物価指数も併せて試算。6月の指数は前年同月比7・2%の上昇で、試算の対象となる1990年以降で最も高い伸びを示しています。

浜銀総研は、赤ちゃん物価指数の試算結果について、「子育て関連商品の値上がりは賃上げによる所得増を上回る勢い」「子育て世帯の負担の高まりが改めて確認」できたといいます。